



ともに歩んだ20年を振り返る ～4つのエピソードを中心に～

東北大学高度教養教育・学生支援機構
教授 倉元 直樹

本講演の構成

- はじめに
- エピソードⅠ：二人の偉大な研究者
- エピソードⅡ：日本テスト学会誌の編集
- エピソードⅢ：テスト規準作成委員会
- エピソードⅣ：日本テスト学会年次大会
- おわりに

2023/3/4

日本テスト学会受賞記念講演

2

はじめに (1)

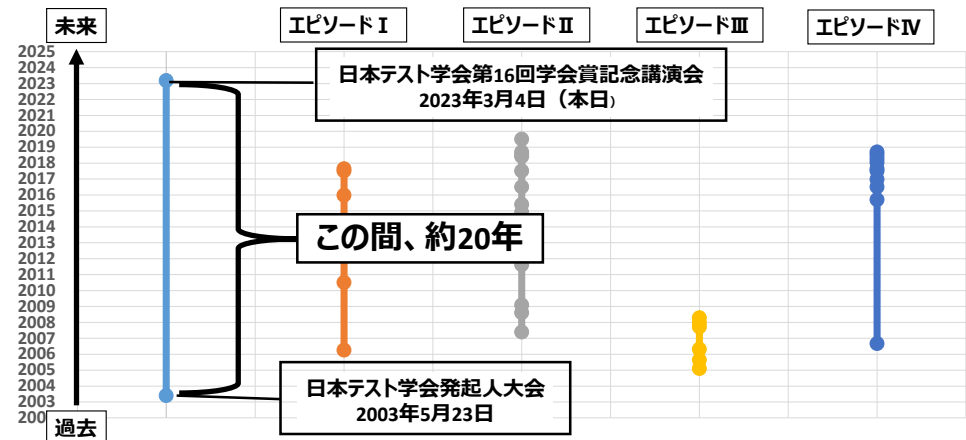
- 2003.5.23 **日本テスト学会発起人大会**
 - 104名の発起人名簿、50音順で30番目に名前
 - 場所は同じ **アルカディア市ヶ谷** (資料1)
- 約20年間経過、**ともに歩んだ**は心からの感慨
 - 受賞のお話をいただいた時に浮かんだ**4つのエピソード**
 - それぞれの出来事が時期的に交錯していた
 - 講演に当たって、**年表**形式で整理してみた (資料2)

2023/3/4

日本テスト学会受賞記念講演

3

はじめに (2)

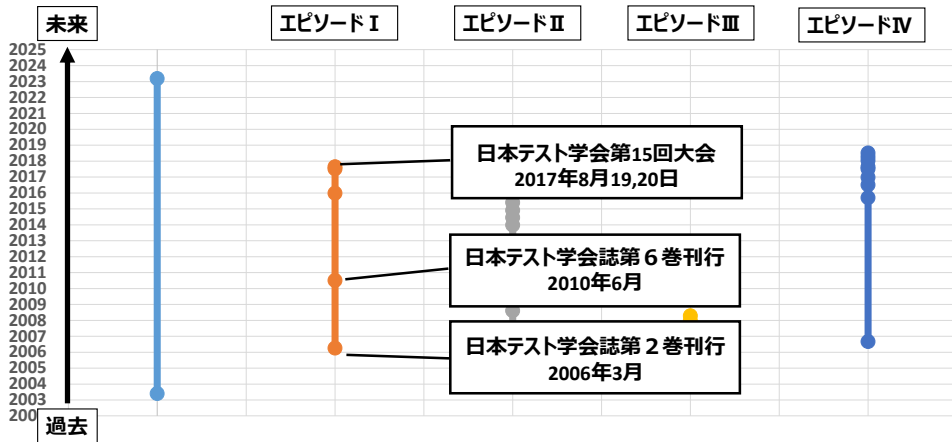


2023/3/4

日本テスト学会受賞記念講演

4

I : 二人の偉大な研究者 (1)

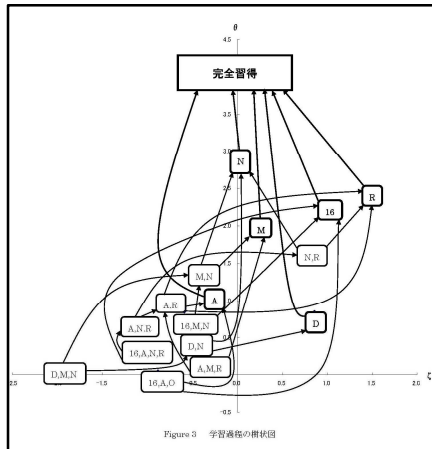


I : 二人の偉大な研究者 (2)

- 龍岡菊美先生 (1928.10.31~2016.8.12)
 - ETS、**ルールスペース法**の Dr. Kumi Tatsuoka
 - 最初の出会いは 1994年頃、大学入試センターで
 - 在外研究時 (1996.3~1997.1) に2人のお弟子さんと知り合いに → 後に共同研究
 - 2000年頃にしばらく滞在して、研究ノートを読み
 - 学会誌第2巻**に連名で投稿

I : 二人の偉大な研究者 (3)

- 教心研 (2003) : 倉元唯一のルールスペース法応用論文
- センター試験**が何を測っているのか
← **生物**で準備段階に
- 歴史の小さな「if」



I : 二人の偉大な研究者 (4)

- 鮫島史子**先生 (1930.12.25~2016.11.2)
 - 日本で業績 → テネシー大学で活躍
 - 自分にとって教科書に載っている**歴史上の人物**
 - 在外研究時に1度だけお目にかかったことがある
 - 帰国されていた2007年5月9日に**能力開発研究所** (能研) 時代のお話を伺いにインタビュー
 - 学会誌第6巻**の招待論文を仲介

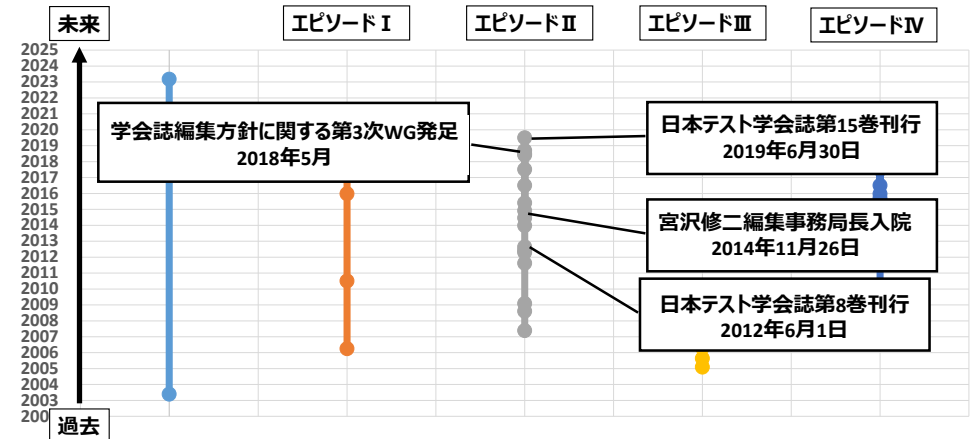


I : 二人の偉大な研究者 (5)

- 龍岡先生と鮫島先生の**共通点**
 - 女性研究者の先駆的存在
 - 米国に渡って長く活躍された
- 龍岡先生との思い出：米国の経験、**歴史的イベント**
- 鮫島先生との思い出：能研時代のエピソード
- 学会誌第13巻**で池田央初代理事長から追悼文
- 第15回大会**でおふたりの追悼セッション



II . 日本テスト学会誌の編集 (1)



II . 日本テスト学会誌の編集 (2)

- 第3代編集出版委員会委員長**を拝命
 - 2期8年：第8巻～第15巻を担当
 - 初代：村木英治委員長（第1巻～第4巻）
 - 2代：前川眞一委員長（第5巻～第7巻）
 - 現在は第4代：岡田謙介委員長（第16巻～）
- 学会誌編集の舞台裏
 - 投稿・査読ルール**の整備、**編集事務局問題**



II . 日本テスト学会誌の編集 (3)

- きっかけは宮沢修二編集事務局長
 - テスト規準作成委員会（後述）で同席
 - 学会誌編集方針に関するWF**（第1次WG、2007年）
 - 投稿規定の整備（論文の種類）、編集事務局問題、幹事会の役割、主査・副査の役割等々について議論
 - 個人情報保護方針の策定（2009年）
 - 2011年8月の理事会で委員長に推薦いただいた



Ⅱ. 日本テスト学会誌の編集 (4)

1. 投稿・査読のルールの整備 (1)

- 震災の年に初めての編集作業 (第8巻)
- 並行してTF (第2次WG) : 査読基準の整備
 1. スケジュール、発行日、査読基準、著作権の明確化
 2. 審査結果に対する異議申し立て規定等々
- 背景に査読を通じたハラスメント問題
 - 学際的分野、学会誌やピアレビューに関する見解の相違
→ 対応には様々な苦勞



Ⅱ. 日本テスト学会誌の編集 (5)

1. 投稿・査読のルールの整備 (2)

1. 倫理綱領作成WG (2015年)
 - テスト研究における研究倫理審査の困難性
 - 研究倫理綱領及び相談窓口の設置
2. 学会誌編集方針に関する第3次WG (2018年)
 - 査読をめぐるトラブル、ハラスメントの防止に向けて
 - 委員長交代のための環境整備が目的
 - 査読方針及びその附表 (資料3) の作成と公開



Ⅱ. 日本テスト学会誌の編集 (6)

2. 編集事務局問題 (1)

- 宮沢修二編集事務局長がボランティアで実務担当
 - 第11巻編集直前、急に体調が悪化 → 担当不可能に
 - 一気に編集事務局問題が表面化
- 学会及び学会誌事務
 - 研究者間の相互負担か委託か ← 規模と予算の問題
 - 日本テスト学会は中途半端な規模
→ 負担が個人に (主に宮沢理事と林理事)



Ⅱ. 日本テスト学会誌の編集 (7)

2. 編集事務局問題 (2)

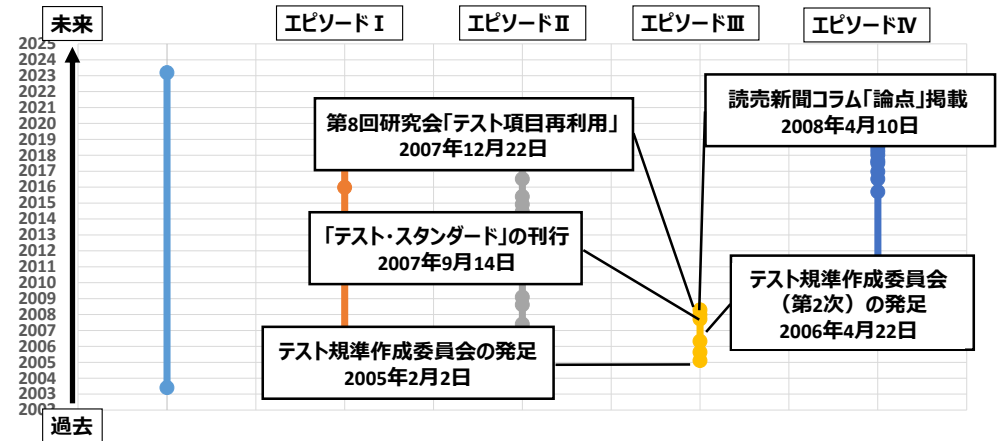
- 第11、12巻は曾我晋が編集事務局担当
- 第13巻～第16巻は毎回担当者が交代
← 解決できないまま退任
- 現在 : Editorial Manager システム導入で軽減
- 日本テスト学会功労賞
宮沢修二会員 (2017年)、林規生会員 (2020年)

II. 日本テスト学会誌の編集 (8)

3. その他の思い出

- **J-Stage** への登録 ← 林学会事務局長のご尽力
- **柳井晴夫第2代理事長** 追悼特集 (第10巻)
 - 宮沢編集事務局長の音頭で追悼企画小委員会を構成
- 第13回大会研究委員会企画シンポジウム特集 (第12巻) (後述)
- 大学入学共通テスト試行調査に対する意見 (第14巻) (後述)

III. テスト規準作成委員会 (1)



III. テスト規準作成委員会 (2)

• **テスト・スタンダード**

- 日本テスト学会の存在意義を示す最重要成果物
- **基本条項51か条**はウェブサイトで公開、**Q&A**は冊子に掲載
- **テスト規準作成委員会** (2005年2月5日~2007年9月14日)
- 第2次委員会では副委員長拝命



III. テスト規準作成委員会 (3)

• テスト・スタンダードを巡る心構え

- 最初はお客さん気分 → すぐに心境が変化
- 我が国における**テスト基準**の設定
→ **大学入試における空前の危機**の回避に期待!

1.13 **質問項目の内容開示の是非**

質問項目の内容を開示することの是非は、開示によって測定の質を維持することが難しくなるなどの影響を考慮し、また、類似問題の代替可能性、非開示期間を設定する方式なども検討した上で慎重に判断すべきである。



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (4)

- 当時の状況（記憶による）
 - 予備校等の作題請負は原則禁止に
 - 個別大学の**大学入試問題作成の負担**が限界
- 岐阜大学を中心に**入試過去問題活用宣言**の動き（2007年4月に正式に宣言）
- **大学入試センター試験**でも国語（古文の素材文枯渇等から派生？）の検討
 - ← **これらの動きを阻止する根拠**としたい

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

21



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (5)

- 1.13 「質問項目の内容開示の是非」**解説** 骨子
 1. 質問項目の**内容開示が不適切**な状況
 - テスト実施前：測定する特性の劣化、**悪質な不正行為**
 - テスト実施後：**再利用を前提に設計**されている場合
 2. 質問項目の**内容開示が可能**な状況
 - テスト実施前：学習効果の促進を目的としたテスト
 - テスト実施後：ハイステークスで**初出項目の使用**が前提
- 非開示項目の**情報漏洩**、**一般公開は許されない**

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

22



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (6)

- 作戦1：**テスト・スタンダードの関連部分の執筆**
 - Q&A: 2、3、4、7、17、19、20（38項目中7項目）
 - Q17. **入試における問題の再利用** (pp.172-174)
- 作戦2：**テスト問題の再利用に関するシンポジウム**
 - 舛田博之研究会担当理事に依頼して実現
 - 第8回研究会（2007年12月22日、於：東京大学）
 - 「テスト実践場面における重要課題の解決策を探る
- **テスト項目の再利用と項目内容の開示の是非** -」

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

23



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (7)

- 作戦3：**公的な言論空間**における発信
 - 読売新聞「論点」におけるコラム掲載（2008年4月10日）（資料4）
 - 長谷川聖治科学部記者のはからい
 - デスクの誤解 → **見出し**を巡るスリリングなやり取り
- 効果は絶大 → 大学入試センター訪問時にボードに貼られた新聞記事を発見

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

24



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (8)

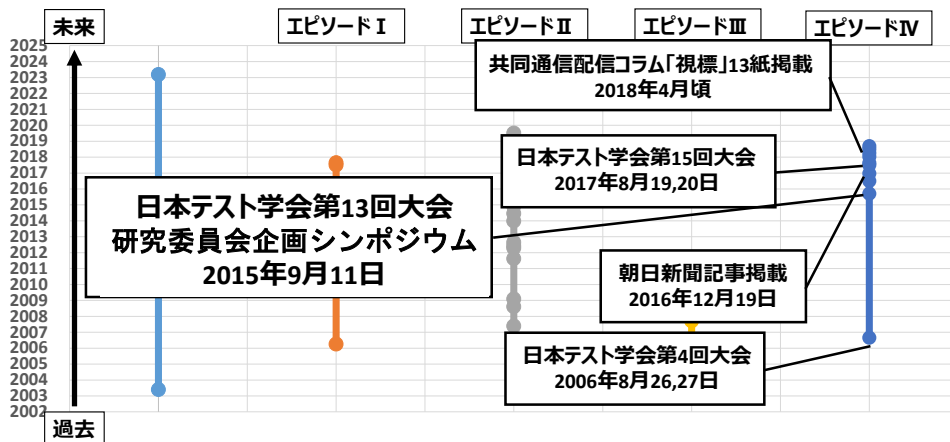
- **暫定的な決着** → 大学入試問題再利用基準
 - (国語などでの) 素材文のバッティングはミスとしない
 - 過去問題との偶然の範囲での類似性は問わない
- しかし、**過去問再利用問題再燃の懸念**は常に
 - 例：中央教育審議会大学分科会第171回 (2023年1月25日) の議論
- 辛抱強く、**テスト・スタンダードの普及**を図る必要



Ⅲ. テスト規準作成委員会 (9)

- 繁榘委員長の指揮の下、忙しくも楽しかった日々
 - **海外のテスト規準**の調査など、頭を使う仕事は椎名久美子委員が中心
 - 解説の相互参照と矛盾の有無のチェック
 - ← 自分の勉強にもなるので、一石二鳥
 - 思わぬご褒美
 - 2019年度 日本行動計量学会林知己夫賞を戴く

Ⅳ：日本テスト学会年次大会 (1)



Ⅳ：日本テスト学会年次大会 (2)

- 日本テスト学会の年次大会は2回主催
 - **第4回大会** (2006年) は村木委員長、事務局長
 - **第15回大会** (2017年) は大会実行委員長
- 第15回大会の企画
 - 鮫島先生、龍岡先生の追悼セッション
 - 高校生を招待しての**センター試験リスニング体験**
 - **仙台大学新体操部**による演技と新体操の採点





IV : 日本テスト学会年次大会 (3)

- **第13回大会研究委員会企画シンポジウム** (予定)
 - 関西大学本会場、東京会場、仙台会場
 - 第1部：シンポジウム「**テスト学からみた高大接続改革**」
関西大学本会場から東京、仙台に中継
 - 第2部：座談会「**校長、高大接続改革を語る**」
仙台サテライト会場から関西大学、東京に中継
- **オンラインで3会場を結ぶ** ← 当時としては野心的



IV : 日本テスト学会年次大会 (4)



IV : 日本テスト学会年次大会 (5)

- 登壇予定者
 - **本会場** (第1部 13:00~) : 南風原朝和副理事長、**宮本久也全国校長会会長**、佐久間淳一名古屋大学教授 (指定討論)
 - **仙台会場** (第2部 15:00~) : 知り合いの高等学校校長3名 (北海道、青森、仙台から)
 - **東京会場** : 前川眞一理事がコーディネーター



IV : 日本テスト学会年次大会 (6)

- 当日、**平成27年9月関東・東北豪雨**が襲来
 - 仙台市中心に大きな被害 → 研究室も浸水被害
- 朝、5時前頃、ニュースで状況を知る
 - **仙台会場中止**を決定 → 現地に対応
 - 第2部登壇予定者に連絡、急遽**2名が関西大学へ**
 - 第1部は予定通り、第2部は宮本久也氏を加えて**関西大学本会場**で実施

IV : 日本テスト学会年次大会 (7)

西嶋潤一校長
(北海道清水高校)



奈良昌孝校長
(青森県立弘前工業高校)

佐久間淳一教授
(名古屋大学)

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

33

IV : 日本テスト学会年次大会 (8)



- 背景事情
 - 高大接続答申 → **高大接続システム改革会議**
 - **危機的状況**の認識を共有するための発信を
- 結果
 - **日本テスト学会内部での問題意識の共有**が進む
 - 学会誌第12巻に特集、様々な発信のきっかけに
 - 高等学校長協会を通じた**高校関係者との連携**

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

34

IV : 日本テスト学会年次大会 (9)



• その後の展開 (1)

1. **マスメディア**で改革の問題点が報道されるように

- 2016年12月19日 朝日新聞記事 (資料5)
 - ← **共通テストへの記述式導入**の根拠が崩れる
 - 宮本・倉元 (2016) は日本テスト学会誌第13巻
- 2018年4月 共同通信配信コラム (資料6)
 - ← **英語民間試験の導入に反対**する高校側の意見
- その他にも、多くのメディア関係者にお世話になりました

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

35

IV : 日本テスト学会年次大会 (10)



• その後の展開 (2)

2. 日本テスト学会としての活動
 - **大学入学共通テスト試行調査に対する意見** (2018年1月9日)
- **第13回大会実行委員会**の先生方への感謝
 - 清水和秋委員長：**テスト学**ということばの産みの親
 - 第13回大会タイトル：「テスト学」と「教育」：理論と実践
 - 脇田貴文実行委員：配信関係の指揮

2023/3/4

日本テスト学会賞受賞記念講演

36



おわりに (1)

- 日本テスト学会の20年 → **テスト学**の社会的認知
 - **心理測定論**の立場からの正論 → 世の中へ影響
 - 自己利益の追求（自己増殖）を至上命題としない
- **学問の現実世界への関わり方**のモデルを提示
- 研究者世界における価値観への違和感
 - **応用分野の学問**が**自律的価値**を主張できるのか？
 - **問題解決**を目的とした学問 → **裏方仕事**の重要性



おわりに (2)

- (仮称) **大学入試学会**設立の必要性
 - 大学入試 = ハイスタークスな選抜の場面
 - **実用的なテスト学**が極めて有効に機能する分野
 - 狭い意味でのテスト学だけでは通用しない
 - より**テーマに特化した研究**、**幅広い基礎分野**
- **日本テスト学会関係者の皆様は是非発起人に**
- **日本テスト学会に最も親しい関連学会**に育てたい